

今年度は認知症を予防するために「認知症についての知識」、「認知症の治療とケア」、「認知症の予防」について、順を追って掲載していきます。

今月は、認知症の診察の流れや治療の紹介です。

認知症が疑われるサインに気づいたら専門医（内科、神経内科、精神科）へ相談してください。



おたっしゃ本舗

今月の福祉

多久市地域包括支援センター
(多久市役所 福祉課内)

☎ 75-6033

認知症ストップ作戦
No.7

多久市地域包括支援センター（おたっしゃ本舗多久）は高齢者のみなさんが、いつまでも元気で安心して暮らせるように、あらゆる面から応援する総合相談機関です。
生活の中で「困ったなあ」「どうしよう」と思うことがあったら、まずご相談ください。

診察と治療



認知症の診察や治療はどんなことをするの？

診察では、問診をはじめ、認知症の要因となっている病気の有無を調べる検査、画像検査などが行われます。治療では、薬による治療のほか、心理療法なども行われます。



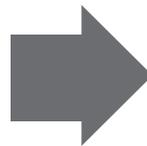
● 診察の流れ

①問診（認知症かどうか調べる）

本人と家族を対象に行います

認知症を診断するときの重要な目安になるため、本人だけでなく、そばにいる家族などにもくわしく問診が行われます。

必要に応じて、記憶障害や認知機能の低下を調べる簡単なテストが行われることもあります。



②検査（原因となっている病気を調べる）

一般内科的診察、血液・尿検査

認知症の原因となっている病気がないか、全身の状態を調べます。

画像検査

CTやMRIによって脳の中の状態や変化を調べます。

必要に応じて、運動機能検査なども行われます。

● 薬による治療

アルツハイマー型認知症に対しては、治療には至らないものの、症状を一時的に改善し、その進行を遅らせるドネペジル（アリセプト）、ガランタミン（レミニール）、リバチグミン（イクセロンパッチ、リバスタッチパッチ）、メマンチン（メマリー）といった薬が有効とされています。作用の異なる2つの薬が併用されることもあります。

血管性認知症の治療薬はありませんが、脳梗塞などの再発を防止することによって悪化を食い止めることができます。周辺症状のひとつとして、うつ状態が見られることもありますが、その程度によっては抗うつ薬が用いられることもあります。

